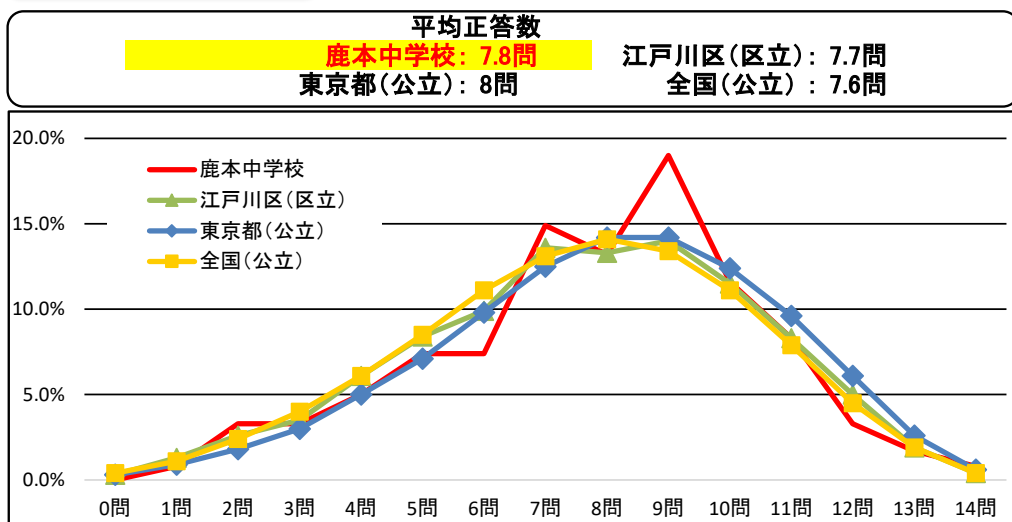


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 鹿本中学校

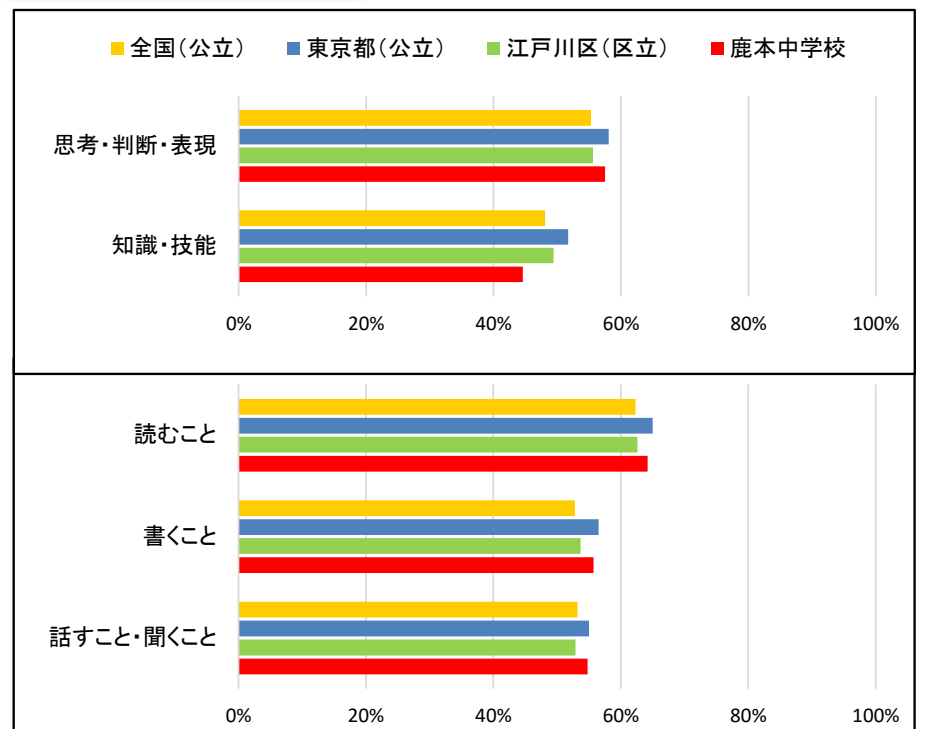
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

鹿本中学校	56%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-1.0

「領域別」の結果

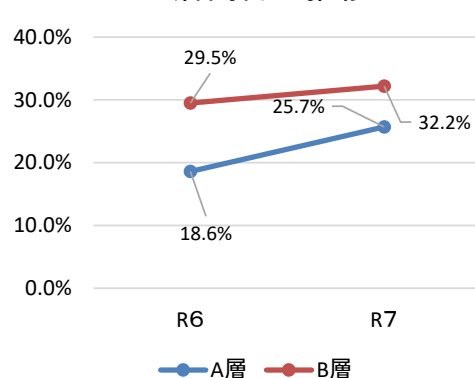


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

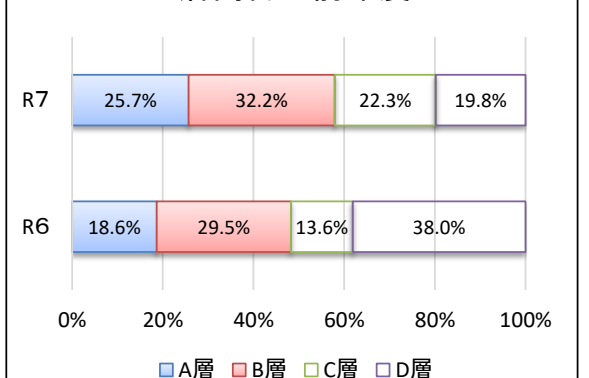
国 語	上位 ← → 下位			
	A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	D層 0～5問
鹿本中学校	25.7%	32.2%	22.3%	19.8%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

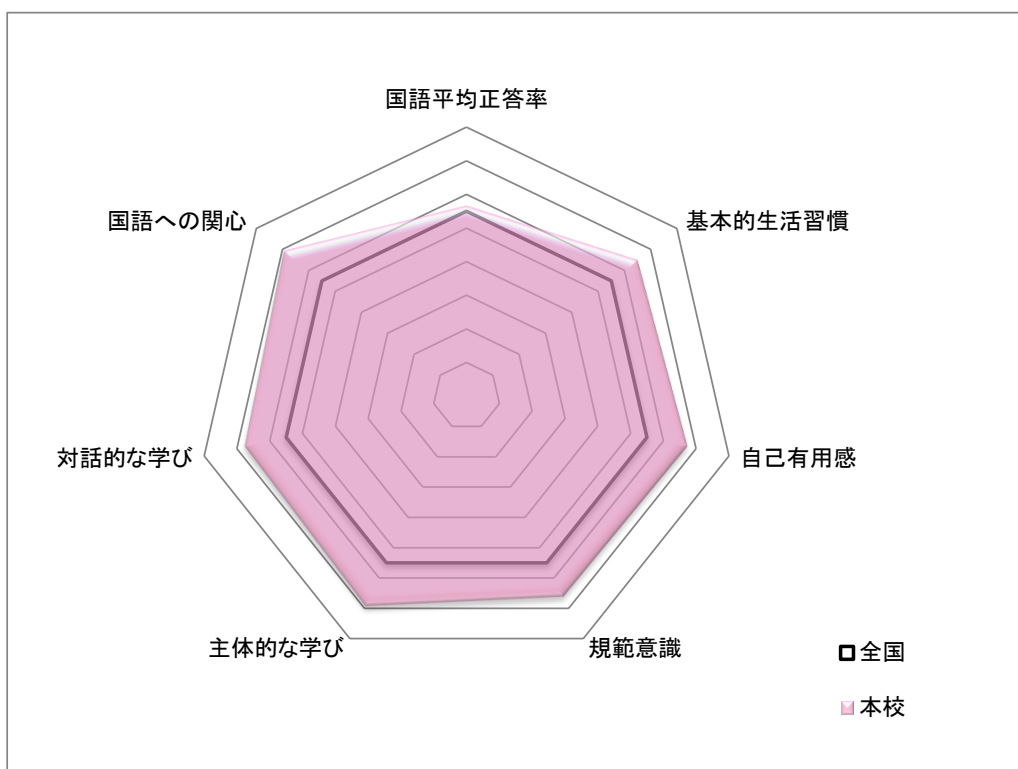
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

国語の正答率以外は、全国平均よりも高いことが見て取れる。積極性は十分にある生徒たちなので、今後、学力向上に向けてどのように分かる授業を行うかが課題である。

《家庭・地域への働きかけ》

年度はじめに、家庭学習の実際の方法を各教科担当から示し、保護者会でも情報共有しているが、なかなか定着できていない。引き続き、折に触れて具体的に家庭学習の確立と読書に親しむことの有用性を示していく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

昨年度と比較すると、A,B層共に割合が増えた。学習意欲旺盛で、精一杯の力を出そうとする学年の雰囲気起因していると思われる。それに伴って学習内容も精選し、質をあげることができた。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

授業規律を大切にし、指導内容を学習指導要領に従って单元ごとによく吟味するようにしている。また、校内研修等で授業改善、指導法向上に努めている。

・基礎学力の保障

領域別結果から、知識技能が他領域よりも下回っていることから、更なる継続的な取組が必要である。学習コンテストを行い、基礎学力の向上を図っている。2学期に行った漢字コンテストでは、生徒皆が努力し、平均点が91点であった。

・学習習慣の確立

年度はじめに毎年、生活リズムを各自見直し、家でいつ机に向かって家庭学習をするのかを考え、保護者とも共有している。それを学期ごとに振り返る機会を設けている。

・AB層の育成

CD層の生徒の学びづらさを少しでも解消するべく、学び合いやグループ学習をり入れたり、個々に対応し添削等をしたりしている。更に学力向上を図るための学習指導を常に心掛け、AB層の学力定着になる学習内容を提供していく。